

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	令和5年11月30日	評価結果市町村受理日	令和6年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100445-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和6年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた静かな環境で、地域の方々と良い関係を保ちつつ、過ごしやすい環境づくりに力を入れています。終末期の取り組みも、ご家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限りご本人の希望に沿うような支援を行っています。外出できるようになったので、気候の良いときに、利用者様全員が何らかの外出を楽しめるよう、それぞれに合った小旅行等を計画実施しました。皆さんの笑顔がいっぱい見られました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と話す時間を大切にし、利用者の思いを引き出している。利用者は有する能力を活かしてホームでの役割を持って暮らしており、自然と笑顔になる場面が多くみられる。ホームの中だけで過ごすのではなく、外出支援にも力を入れており、馴染みの喫茶店や近隣のアミューズメント施設に出かけている。馴染みの喫茶店に出向いた利用者が、偶然出会ったお友達と撮った写真を飾り、外出の楽しみだけでなく、思い出も積み重ねている。中庭の手入れを、地元のシルバー人材センターに依頼するなど、地域との関わりを持つことにも力を入れている。
会議録等の書類の改善に着目し、より一層の情報共有の体制を整えようとしている。外国人職員にも分かりやすいよう記録方法を配慮し、働きやすい環境の提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに掲示し、理念に基づいたサービス提供を行っています。	「ゆっくりたのしく一緒に」という理念をホーム内に掲示し、利用者個々のリズムを尊重した関わりを持っている。焦って仕事をしている職員に対しては、理念に沿って焦らずゆっくり行動できるように管理者が伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として、回覧板から地域の情報を得ています。職員全員が地域の方とのあいさつ、立ち話がができる関係を維持しています。	利用者が窓から近所の人に声をかけたり野菜の差し入れをもらったりして、地域に受け入れられている。グループホーム主催で、地域の住民が参加できる認知症カフェなどを開催し、高齢者に向けた活動の発信をしていったという意向がある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を再開し、日々の出来事や行事等の報告をしています。業務の在り方についても意見交換し、助言をいただいています。	運営推進会議には近隣住民、利用者、家族、市の職員等が参加し、運営に関することなど様々な意見が出され、それを職員で共有して改善に努めている。改善した結果も報告し、進捗状況を伝えることも大切にしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や困っているときなど、直接または電話で相談等しています。	市内の事業者が集まるネットワーク会議に参加している。市の担当者への連絡は主に電話で行い、書類を提出する際には窓口に出向き、顔を合わせて話をしている。生活保護の担当者から利用者の受入れの相談が来ることもある。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を行い、全職員に対して研修を行っています。利用者様の安全を考慮しながら、拘束しないケアを提供しています。	やむを得ず身体拘束が必要な場合は、医師とも連携をとり、決められた手順に従って対応している。身体拘束をしないケアについての研修は全職員が受けられるようリモート研修の導入を準備している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回研修を行っています。研修の中でチェックリストを用いて、虐待をしていないか再確認し、虐待の芽を摘むようにしています。	日常のケアをチェックリストで振り返り、不安に感じていることがあれば研修のテーマとして取り上げたり、外部研修を受けた時には、ホーム内で共有をしている。スピーチロックなど不適切ケアが無いよう意識した支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる利用者様がおります。保佐人から後見人へ変更手続きをし、より後見制度について知ることができています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の思いを伺いながら、じっくり時間をかけて説明しています。契約改定時も直接説明し、理解、納得を図っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご要望やご意見は随時LINEにて受け付けています。すぐに対応できるよう職員間での連携をとるように努めています。	家族とはSNSを活用しホームでの様子を共有し、家族の相談にもりながら、意見の出やすい関係作りに努めている。面会制限を緩和したことにより、家族と顔を合わせる機会が増えたため、家族から直接聞いた意見も真摯に受け止め改善に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にショートミーティングを行っています。メモ、申し送りを活用し、提案、課題を把握し、サービス向上につなげています。	管理者は職員から日常的に話を聞いたり、相談にのっている。職員からは業務改善に関する意見が多く出され、備品の収納スペースと共有空間との間にパーテーション設置をすることで利用者の安全確保にもなるという意見には代表がすぐに対応し、改善に繋がったという事例がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の年齢、家族構成に配慮し、可能な限り希望を取り入れた勤務体制にしています。希望休が必ずとれるよう取り組んでいます。	職員の家庭の事情も考慮し、勤務時間は柔軟に対応し、休みが取りやすいようにしている。職員からの相談で専門性の求められることに関しては、法人で関わりのある各専門職に繋げて、悩みをため込まないようにする配慮もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が介護、看護などの資格を有しています。外部研修にも参加し、基礎研修から段階的に、幅広い知識、情報の習得に励んでいます。	法人のサポートにより、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員などの資格を取得した職員がいる。資格取得を目指すときには、勉強のアドバイスをしたり、費用補助の制度の案内をしている。外国人職員には、わかりやすい言葉で伝え、様々な業務の経験を積んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の会議に参加し、直接同業者と交流することができています。意見交換や業務体制などの話し合いをしました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、ご本人が能力を最大限活用できるよう、各々に合わせ、洗濯物をたたんだり、食器を拭いたりする作業をさせていただいています。利用者様から「手伝うよ」と積極的に動いてくださいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望は随時ご家族にお伝えしています。意思をうまく伝えられない利用者様については、ご家族にお話を伺ったり、表情などから読み取るように努めています。	普段の会話や家族から聞いたことを職員で共有しながら日常のケアに反映している。母校である高校の、高校野球の予選が見たい、という利用者の希望に応え、職員と一緒に試合を観戦することを実現した。	利用者から汲取った意向などを確実に記録等に残しておき、ニーズの変化を確認できるような仕組みづくりが望まれる。
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施しています。ご本人やご家族の意見を伺い、職員にはその方のできることやできないことを記入してもらい、現状に即した介護計画を作成しています。	家族が気になっていることなどの意見を把握し、介護計画に反映している。支援の具体的な内容を貼り出し、それを実践したら記録をしていくという流れを作り、達成状況を確認できる仕組みとなっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの実践などは個別記録に記入しています。気づいたことはすぐに職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。	タブレット等を活用することで、介護計画と連動した記録をしやすい環境を整えている。完全に電子化に移行できていないため、業務日誌などまだ手書きでの記録も行っており、電子化との併用で確実に記録が残るよう努めている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるよう知識を深めています。身寄りのない利用者様には成年後見制度を利用するよう勧め、外部のお買い物代行サービスを利用する等、ニーズに合った支援に取り組んでいます。	必要に応じ、後見制度の利用を勧めたり、通院や買い物などで外部サービスを利用することなどを提案している。利用者が外出で楽しかった様子の写真を廊下に飾り、何度でも見て楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人のご兄弟姉妹と面会できたり、昔通っていた喫茶店に行ったりと、地域資源を活用しながら楽しみを持って生活できています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期健診と必要時の個別往診をお願いしています。主治医の専門外の科に受診するときは、ご家族に付き添っていただいています。主治医に自身の思いを伝えたり、的確に質問ができるよう、そばで支援しています。	かかりつけ医は利用者の意向に沿って選択することができる。ホームの協力医は、24時間対応で緊急時の訪問も行っている。看護師による健康相談も実施しており、利用者が抱える健康の不安を軽減する取り組みを行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員やご家族と密に連絡を取り合い、早期退院できるよう情報を共有し、対応しています。	医療機関の相談員とは適宜、情報共有し、早期退院に向けて調整している。退院が決まったときには、ホームでの生活が継続できるように介護計画を変更し、職員で共有して受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予め入所時に看取りに関する説明をし、終末期の前段階には、改めてご家族の意向を伺い、主治医から直接ご本人、ご家族にターミナル期についてお話をしていただき、チームで支援しています。	重度化した時には、主治医から家族に説明してもらい、希望があれば可能な範囲で看取り介護の対応をしている。看取り期には家族の面会には柔軟に対応し利用者がより良い最期を迎えられるよう努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講しています。動画視聴によるイメージトレーニングも行っています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ポータブル電源、仮設トイレ、炭火での調理の備えをしています。利用者様の安心安全に配慮した避難方法を実践しています。図上訓練の研修に参加し、災害について話し合う機会を増やしています。ご近所の方にも災害時にご協力いただけるようお願いしています。	年2回の避難訓練は昼・夜の時間帯、地震や火災を想定して、利用者参加で行っている。停電を実際に経験したことで備品の見直しを行った。近隣の住宅には避難したあとの利用者の見守りや保護に関し協力してもらうことを依頼している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で過ごされる方は時々様子を見たり、ホールにおられる方にはリラックスできるよう見守りしています。排尿排便時は小声でプライバシー確保に努めています。共用部分には見守りカメラを設置し、事故防止に努めています。	トイレの扉を閉めることを徹底するだけでなく、男性・女性トイレを分けることで、利用者の羞恥心やプライバシーの確保に配慮している。体調に不安のある場合、家族に許可を得て居室に見守りカメラを設置することがある。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の希望を汲み取り、一人一人の性格やその日の気分に応じて、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。毎日10時のティータイムに何が飲みたいかご自身で選んでいただいています。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節や天気や趣味の話など、利用者様の気持ちに寄り添い、リハビリやレクリエーションを通して、活気ある日常を過ごしていただけるよう支援しています。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事、誕生日などには、普段と違う食事を準備し、使用する食器や盛り付けの工夫をしています。利用者様には野菜の皮むきをしていただき、食事作りにも参加いただいています。	食事は利用者のリクエストに応えながら、手作りのものを提供している。材料の下ごしらえ、頂き物の渋柿や栗などの処理は、利用者も関りながら行っている。ランチ外食も取り入れ、メニューを選ぶ楽しみも味わっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食と10時のティータイムと15時のおやつで一日の必要量が摂取できるようにしています。毎月の体重測定結果や不定期に実施しているBMI値を基に主食量の調整を細かく行っています。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にスタッフが見守りながら、歯磨きを行っています。ミキサー食の方には口腔ケアスポンジでケアしています。	自分で歯磨きができる場合でも、最後は職員が確認し、磨き残しが無いようにしている。義歯は夜中に洗浄し、歯ブラシの消毒は食洗器を活用して行っている。義歯の不具合がある場合、家族の協力で歯科受診をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間に気を遣い、できる限りトイレで排泄できるよう自立支援しています。ポータブルトイレがあるので、失敗は少ないです。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の声掛けには気を遣い、前向きな声掛けをし、気持ちよく入っていただけるようにしています。拒否があれば、利用者様と相談し、希望の日に入れるよう努めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に休息時間を設けています。休まれる方、活動される方様々です。安心できる環境は人それぞれなので、一人一人に合わせた対応をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の体調の変化や様子を見ながら、スタッフや主治医、看護師と相談しながら調整しています。副作用が強い場合がすぐに主治医に報告し、迅速な対応に努めています。	管理者が薬の管理を担当し、処方薬の受取りから情報把握も行っている。服薬前は職員がダブルチェックし、服薬後の口腔内の残薬の確認も行い、薬の事故を防いでいる。錠剤の飲み込みができない時には主治医に相談して対応してもらっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、たたみ等できる範囲で家事に参加していただいています。嗜好品はご家族にご用意いただいています。ドライブ、散歩、レクリエーション等で楽しく過ごせるよう努めています。	毎月、1回は外出支援を行い、事前に行き先の段差やトイレの状況などを下調べをすることで、安全に楽しんでもらえるように努めている。家族との時間も大切に、近くのショッピングモールへ一緒に買い物に行くための支援も行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブにお連れしたり、車椅子の方がご家族と出かけられるよう、イオンまでスタッフが車椅子の利用者様をお送りし、そこでご家族と合流し、お買い物やお食事を楽しまれた後、またお迎えに上がるという支援をしています。	近隣の散歩は日常的に行い、近所の人とすれ違う時には挨拶をかわし、時には世間話を楽しんでいる。中庭にはいつでも自由に出入りできるようになっており、天気の良い日は東屋で外の景色を眺め、のんびり過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の自己管理をされている方はおられません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望に合わせて、電話やLINEのビデオ通話ができるよう支援しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには行事や、外出の様子を大きく記事にして、見て楽しめる空間を作っています。こまめに室温湿度をチェックし、快適に過ごせるよう努めています。	中庭を眺める大きな窓からは心地よい光が差し込んでいる。キッチンにはカウンター席があり、落ち着かない時にはそこに座り、職員と対面で会話をして気持ちを落ち着かせている。浴室には冷暖房を完備しており、寒暖差に配慮している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこに居たいか、座りたいか希望を伺い、気の合う方同士で座れるよう配慮しています。一人一人の心地良い場所を把握し、誘導しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の希望、動きやすさを考慮して家具を配置しています。居室にはご家族やご本人の写真を飾っています。清掃、整理整頓に努め、快適な空間にしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室が分かるように表示しています。分からない方には丁寧に説明して、自立した生活を促しています。		